

平成 26 年度

くさつ景観グランプリ 屋外広告物部門

入賞作品集

草津市

くさつ景観グランプリについて

草津市は、湖南アルプスや三上山の眺望、緑豊かな田園地帯、草津宿本陣をはじめとした歴史的文化遺産など、先人たちが積み重ねてきた生活文化や歴史の上に現在のまちが成り立っており、良好な景観を有するまちといえます。これまで守り、育てられてきた本市の景観を、後世まで伝え残すとともに、美しい都市景観を創出するため、平成24年10月に草津市景観計画を施行し、また、平成25年1月には、草津市屋外広告物条例を施行しました。

これらの施策において、基本理念や景観づくりの方向性を規定し、皆様にお知らせをし、御協力いただいているところですが、今回、より皆様に草津市の景観について関心や興味を持っていただき、市民や事業者の皆様と行政が協力し合いながら取り組めるよう、地域景観の向上に貢献された取り組みを表彰する制度を設けました。

それが「くさつ景観グランプリ」です。

「くさつ景観グランプリ」は、景観づくりの活動を表彰する『景観部門』、景観に配慮して設計された建築物やまちなみに対して表彰する『まちづくり・まちなみ部門』、景観に配慮した広告物を表彰する『屋外広告物部門』の3部門で構成しています。

第1回目となる平成26年度は『屋外広告物部門』について表彰しました。

目 次

◆市長あいさつ	2
◆審査委員長講評	2
◆くさつ景観グランプリ 屋外広告物部門	
①歴史的デザイン賞および②景観協力賞について	3
○歴史的デザイン賞 太田酒造株式会社	4
○景観協力賞 南草津郵便局	5
○景観協力賞 ケーズデンキ草津南店	6
○景観協力賞 Century21 sublime 不動産販売南草津店	7
③「これからにくさつ」景観広告賞について	8
○(草津エリア選出) 花谷三味線店	9
○(南草津エリア選出)古川酒造有限会社	10

市長あいさつ



屋外広告物は、宣伝を目的とするものが多く、日常生活に必要な情報を提供し、まちに生き生きとした表情をもたらしますが、その反面、無秩序に出されると、まちの美観が損なわれることになり、都市の景観に大きな影響を与える要素の一つです。

草津市では、屋外広告物の適正な掲出を通じて、心地よさが感じられるまちづくりをすすめるため、平成25年1月に「草津市屋外広告物条例」を施行いたしました。条例では、草津市の景観特性に合わせた屋外広告物の掲出に係る基準を設定し、屋外広告物の規制誘導を通じた良好な景観の形成に取り組んでおり、皆様に御協力いただいておりますことに、深く感謝申しあげます。

市内に点在する屋外広告物には、東海道の宿場町の街並みに調和した歴史的なものや、洗練されたデザインのもの、周囲の景観に見事に調和したものなど、素晴らしいものがたくさんあります。

この「くさつ景観グランプリ 屋外広告物部門」は、これらの素晴らしい広告物があることを市民の皆様に知っていただくことで、屋外広告物について関心を持っていただき、ひいては草津市の景観について考え、活動していただきたいとの思いから実施いたしました。

景観づくりは、日頃、見慣れた身近な景観について再認識することから始まると考えております。今回の取り組みを機に、市民の皆様が景観に対する関心を抱き、景観を通じて草津のまちをさらに好きになっていただければ幸いです。

平成27年3月

草津市長 橋川 渉

くさつ景観グランプリの審査を終えて



平成26年度から始まった「くさつ景観グランプリ」の中で、「屋外広告物部門」は本年度は「歴史的デザイン賞」「『これからのくさつ』景観広告賞」「景観協力賞」の3つの賞を選びました。審査は6名（専門家4名、学生委員2名）で行い、「歴史的デザイン賞」については市民投票結果を評価に加えました。「歴史的デザイン賞」は旧東海道と旧中山道などで歴史をうまく表現しているものを探しました。昔から伝わる看板を利用しているものと、新しいが木の使用や字体などで歴史を表現しているものの2種が見られました。看板を建築物と関連付けてデザインしている例も多く、感心しました。良い事例が多く審査票は別れましたが、最終的には市民投票と一致する結果となりました。「『これからのくさつ』景観広告賞」は審査を若い学生たちが行いましたが、まちの景観との調和が評価視点とされました。「景観協力賞」の受賞作は単におとなしいというのではなくデザインに洗練と品格が感じられました。

受賞作がこれからの景観づくりの良いヒントとなるよう期待したいと思います。

平成27年3月

審査委員長 山崎 正史
(立命館大学名誉教授)

くさつ景観グランプリ 屋外広告部門

「くさつ景観グランプリ 屋外広告部門」は、①歴史的デザイン賞、②景観協力賞、③「これからのくさつ」景観広告賞の3つの区分で選考しました。

- ① 歴史的デザイン賞
- ② 景観協力賞

表彰広告物・選考基準

① 歴史的デザイン賞

❖ 表彰広告物

太田酒造株式会社（草津三丁目）

❖ 選考基準

再現することが容易でなく、歴史的なまちなみ景観の形成に寄与する広告物であること。

② 景観協力賞

❖ 表彰広告物

南草津郵便局（南草津三丁目）

ケーズデンキ草津南店（新浜町）

century21 sublime不動産販売南草津店（野路四丁目）

❖ 選考基準

周辺の景観に調和するように、新たに掲出する場合や既存の広告物の改修時に、コーポレートカラー等を落ち着いた色に変更するなど、景観に配慮した取組みであること。

選考委員

山崎 正史	立命館大学名誉教授
石川 亮	成安造形大学 附属近江学研究所研究員
若林 武彦	滋賀県広告美術協同組合 理事・広告景観委員長
小西 佐枝	立命館大学 建築都市デザイン学科 学生
柏木 知香	成安造形大学 芸術学部 芸術学科 学生
八杉 淳	草津宿街道交流館長

選考経過

募集期間 平成26年8月1日～平成26年10月10日
審査会・現地審査 平成26年11月2日(土)



表彰式 平成26年11月29日(土)
東海道サミットにて表彰を行いました。



① 歴史的デザイン賞

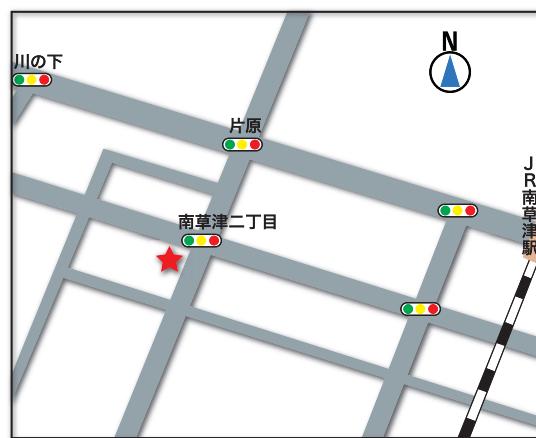
太田酒造株式会社



- ◆ 講評 *さけふね* 50年程前に酒槽（酒を絞り出すための箱）として使用していた底板に、当時の蔵人が店名を彫られたものです。柿渋が塗ってあり自然の木目を表現した、素朴な感じがある風格品格が素晴らしい、東海道宿場町草津を象徴するような広告物です。
- ◆ 広告主 太田酒造株式会社
- ◆ 所在地 草津市草津三丁目10番37号

② 景観協力賞

南草津郵便局



- ◆ 講評 JR南草津駅近くの区画整理の新しい街に開設された郵便局の広告物です。入り口上部の壁面広告物、野立広告物について、落ち着いた街の雰囲気に合わせて、コーポレートカラーの赤色の割合を少なくするため、文字と下地色を反転されています。
- ◆ 広告主 日本郵便株式会社 近畿支社
- ◆ 所在地 草津市南草津三丁目6番1号

② 景観協力賞

ケースデンキ草津南店



- ◆ 講評 家電量販店の広告物で、コーポレートカラーは赤色であるものの、周辺の景観に調和するよう、茶色への変更や、下地色と文字色の反転により、存在感はそのまま全体的に落ち着いた雰囲気となっています。
- ◆ 広告主 株式会社関西ケースデンキ
- ◆ 所在地 草津市新浜町408番地

② 景観協力賞

century21 sublime 不動産販売南草津店



- ◆ 講評 不動産販売の店舗の広告物です。通常のコーポレートカラーである明るい黄色と黒色を、白色の下地に変更された事例です。外壁を茶系色にし、入り口付近の壁面サインも落ち着いた色合いとなっています。
- ◆ 広告主 sublime不動産販売株式会社
- ◆ 所在地 草津市野路四丁目1番7号

③「これからのくさつ」景観広告賞

賞の概要

学生の目線から見た「優良な広告物」で、「これからのくさつ」に必要であり、残していく必要のある広告物であることを基準として選考しました。

平成26年度は、草津駅、南草津駅周辺を含む東海道・中山道を対象エリアとして、フィールドワークを行い、その後、ワークショップを行い、選考しました。

❖表彰広告物

草津エリア 花谷三味線店（草津三丁目）
南草津エリア 古川酒造有限会社（矢倉一丁目）



選考について

平成26年10月4日(土)

フィールドワーク・ワークショップの実施

平成26年11月29日(土)

表彰式



立命館大学および成安造形大学の両学生が参加し、屋外広告物に関する説明を受けた後、それぞれのエリアに分かれてフィールドワークを行いました。

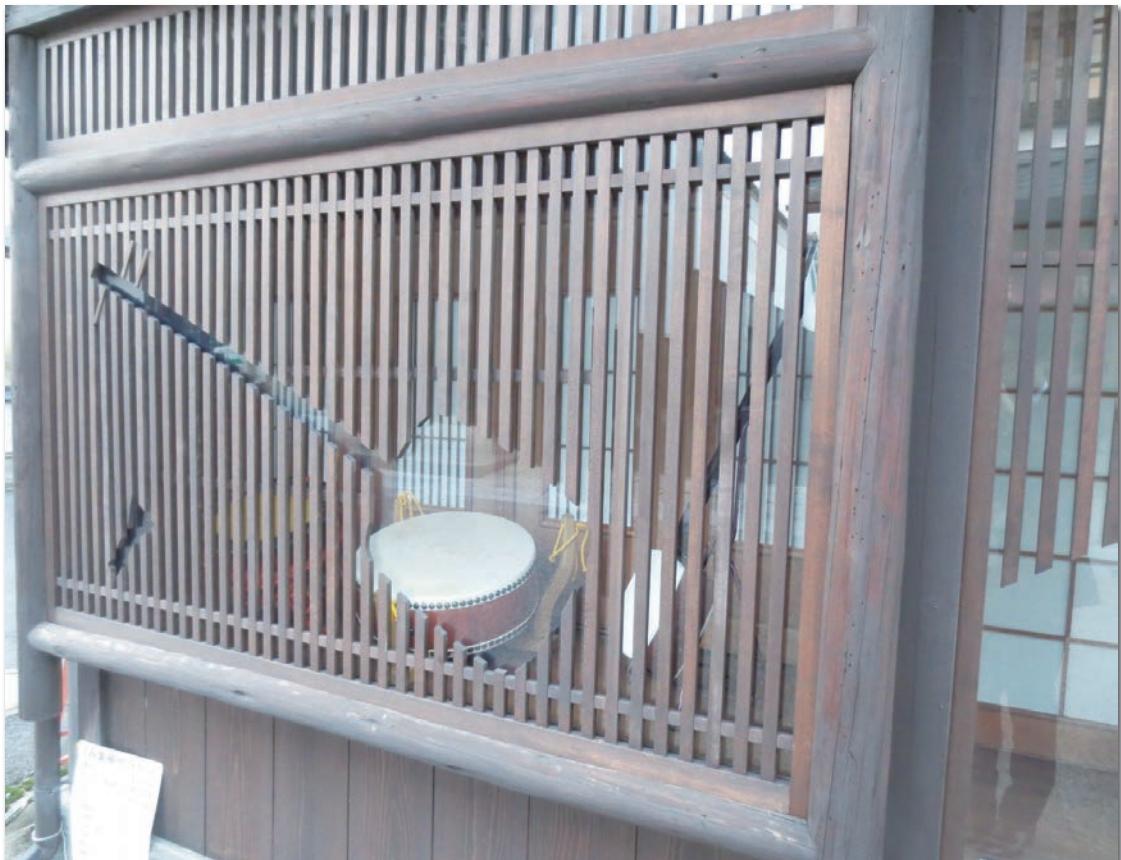
その後、それぞれのエリアで表彰にふさわしい広告物について参加者全員でワークショップを行い、大学生目線で各エリアから1点ずつ選考しました。

なお、今年度は「びわこ大津草津景観推進協議会」の事業として、滋賀県広告美術協同組合の御協力を得ながら、本市と大津市が合同で開催しました。



③「これからのかくさつ」景観広告賞（草津エリア）

花谷三味線店



- ◆ 講評 琴、三味線などを取り扱っておられるお店で、店舗前面の格子を三味線とぼちに形どった広告物です。店舗がある東海道の宿場町の町並みに調和した、歴史的な意匠の建物、それを引き立てる広告物についても派手な装飾はないにもかかわらず、醸し出す大きな存在感が魅力的です。
- ◆ 広告主 花谷三味線店
- ◆ 所在地 草津市草津三丁目9番24号

③「これからのかくさつ」景観広告賞（南草津エリア）

古川酒造有限会社



- ◆ 講評 ガラス戸に酒銘と店名を描いた、酒造店の広告物です。店舗がある東海道のまちなみ調和した建具のガラス戸の透明感が、日本酒の透明感を連想させて、魅力的です。
- ◆ 広告主 古川酒造有限会社
- ◆ 所在地 草津市矢倉一丁目3番33号



発 行：草津市都市計画部景観課

発行年：平成27年3月

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

電 話：077-561-6507

FAX：077-561-2486